平成元年度厚生省心身障害研究
「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」

＜分担研究報告＞

小児の健康と養育条件に関する研究

分担研究者　岡　宏子

A．研究の意義

「小児の健康と養育条件に関する」本研究は，国立公衆衛生院，高野陽部長を班長とする「地域・家庭環境の小児に対する影響に関する研究」の分担研究として，企画され，研究者の構成が行われ，研究に着手した。

地域や家庭環境が小児に及ぼす影響という非常に広汎且つ多角的な問題のなかでも，その養育条件と小児の心身の健康な発育との関連を明確に把握することは，その中核をなすともいうべき重要，且つ基本的な問題であろう。特に，現代の社会にあって，小児の生育する環境条件の急速な変化のなかで，その直接の養育条件もまた種々の変容を蒙り，それが，小児の心身の健康を阻み，歪みをもたらしていると思われること，それが，幾多の子どもたちの，反社会的または非社会的行動をうみ出していると思われること，等を考える時，これら養育条件と小児の心身の健康との関係の分析は，不可欠の重要性をもつものであると思われる。

ところで，この養育条件の何をとりあげて問題の中心におくか，ということを決めるには，ある種の困難が伴う。ということは，現代社会における小児の生育環境のなかで，その健康とかゝわりを持つと思われる養育条件は，かなり多種多岐にわたって数多く存在するから，その何を分析の対象とすべきかの決定がむつかしいからである。

今回の本研究を構成するに当って，班員の各専門領域に拡がりがあり，一見，夫々のテーマの間に，脈絡を欠くかの如く感じられる向きもあるかも知れないのは，この多領域にわたる小児の健康との関連分析を必要とする養育条件から，次のような視点からえらび出されたものによって再構成されたことによるからである。

即ち，1.まづ，現代の子どもたちの生態のなかで，特にその心身の健康の歪み，病態につながりがあると思われ，その関連の分析がいそがれるもの，2.現代社会のなかで，その養育作用に大きな変化がおこっていることから，関連の分析が求められるもの，3.その関連の分析が，小児の発達の歪み，病態に対する対策，すなわち，その早期発見と治療又は再教育の方策を見出すことにつながり，現代の小児の発達の問題への対策に結びつくことが期待されるもの，の三点がそれであり，この線にそってえらび出された以下にある養育条件の分析は，その成果がまたれる大きな意義を有するものといえよう。

B．研究班の構成

上記の考え方から，本研究は，次の四つの柱となる養育条件と健康との関連の分析チームによって構成されることになった。

1. 被虐待児の予防・早期発見・援助に関する研究
   松井一郎　国立小児病院医療研究センター・部長
   籔内百治　大阪府立母子保健総合医療センター・所長
   稲村　博　筑波大学・助教授
2. 1歳代幼児を対象とした「母と子の遊びの教室」の開発に関する研究
   高野　陽　国立公衆衛生院・部長
3. 小児の養育における父親の役割に関する研究
   高橋種昭　日本女子大学・教授
4. 小児の対人関係の歪みに関する研究
   岡　宏子　聖心女子大学・名誉教授
   荒堀憲二　国立公衆衛生院・室長

聖心女子大学（Seishin Women's Vniversity）

この研究チーム構成のなかで，1の被虐待児の予防・早期発見・援助に関する研究では児の虐待が行われる場合の親子の相互の関係をつくり出す広義の養育条件を分析することにより，その予防，援助に資するよう研究がすゝめられるが，そのうち，稲村博の研究は「青少年問題の診断分類基準と対応法」と題して，現代の青少年問題の重要な一角である登校拒否の問題に焦点をあてたものである。

2.の「母と子の遊びの教室」の開発に関する研究は，養育条件の分析というよりはむしろ，広義の現代の子どもの養育環境のなかで変化してきた遊びをより積極的にとらえて，小児の心身の健康のために「場」を開発するという対策のための分析で，特定テーマとしてくみ込まれた。

3.は，近頃とみに注目されてきた家庭のなかの父親の役割―現代社会におけるその養育作用の変容をもろに蒙つている条件の一つである―の子どもの発達への影響に焦点をあてたものであり，

4.は，現代の子どもの心の健康問題の柱の一つは，人と人とのかゝわり方そのものに変容が起りつゝあるのではないかという，これまた現代的問題点に視点をおいて，そのかゝわりの発達と歪みの形成に，養育条件がどのような関係をもつかを見出そうというものである。この中で，荒堀の研究は「家族内性愛」という，特殊な関係の生起条件の分析である。

C．本年度の研究活動と経過

1989年12月26日に，第1回班会議を開き，各班ごとに班員が研究テーマについての説明と研究の計画を述べ，1990年1月26日には，第2回の班会議を開催し，各班員が研究の具体的方法，その分析開始時に当面した問題点を発表。前記のように，テーマが多岐にわたっているにも拘らず，小児の健康の現代的歪みとそれをもたらす条件との関連を分析するについての共通の問題点を見出し，又分析方法とその結果を又新しい方法の設定にフィードバックする手法や，その成果をこの現代的問題点を予防し，又は治療教育の方途につなげていく行動学的法則を見出すという共通の問題を討論のなかで発見し，活発な論議が重ねられた。

1990年3月17日「地域・家庭環境の小児に対する影響に関する研究」の全体研究報告会が開かれ，本分担研究も8人の班員によって本年度研究の結果が報告された。

D．まとめ

本年度は，研究第1年目であるので，研究の班構成，夫々の方法決定，研究着手，と短い期間でありながら，夫々，重要な養育条件と小児の健康な発達及び歪み病態との関係について適確な問題性の把握と，分析方法の工夫が行われ更に条件分析の第一次的な見通しの発見がなされた。この成果をふまえて，次年度は，研究の目的である夫々のテーマでの健康と養育条件との関連の分析の次のステップと，又最終年度に向って，その成果を，予防や治療，又は積極的な育成条件の確立を目ざしての行動学的把握に向うことになっている。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

A.研究の意義

「小児の健康と養育条件に関する」本研究は,国立公衆衛生院,高野陽部長を班長とする「地域・家庭環境の小児に対する影響に関する研究」の分担研究として,企画され,研究者の構成が行われ,研究に着手した。

地域や家庭環境が小児に及ぼす影響という非常に広汎且つ多角的な問題のなかでも,その養育条件と小児の心身の健康な発育との関連を明確に把握することは,その中核をなすともいうべき重要,且つ基本的な問題であろう。特に,現代の社会にあって,小児の生育する環境条件の急速な変化のなかで,その直接の養育条件もまた種々の変容を蒙り,それが,小児の心身の健康を阻み,歪みをもたらしていると思われること,それが,幾多の子どもたちの,反社会的または非社会的行動をうみ出していると思われること,等を考える時,これら養育条件と小児の心身の健康との関係の分析は,不可欠の重要性をもつものであると思われる。

ところで,この養育条件の何をとりあげて問題の中心におくか,ということを決めるには,ある種の困難が伴う。ということは,現代社会における小児の生育環境のなかで,その健康とかかわりを持つと思われる養育条件は,かなり多種多岐にわたって数多く存在するから,その何を分析の対象とすべきかの決定がむつかしいからである。

今回の本研究を構成するに当って,班員の各専門領域に拡がりがあり,一見,夫々のテーマの間に,脈絡を欠くかの如く感じられる向きもあるかも知れないのは,この多領域にわたる小児の健康との関連分析を必要とする養育条件から,次のような視点からえらび出されたものによって再構成されたことによるからである。

即ち,1.まづ,現代の子どもたちの生態のなかで,特にその心身の健康の歪み,病態につながりがあると思われ,その関連の分析がいそがれるもの,2.現代社会のなかで,その養育作用に大きな変化がおこっていることから,関連の分析が求められるもの,3.その関連の分析が,小児の発達の歪み,病態に対する対策,すなわち,その早期発見と治療又は再教育の方策を見出すことにつながり,現代の小児の発達の問題への対策に結びつくことが期待されるもの,の三点がそれであり,この線にそってえらび出された以下にある養育条件の分析は,その成果がまたれる大きな意義を有するものといえよう。